

全
広
連

二〇一八年九月五日発行 / 奇数月一回五日発行 / 通巻一〇七七号 / 昭和三十九年二月十一日第三種郵便物認可
発行 / 公益社団法人全日本広告連盟 〒一〇四・〇〇六 東京都中央区銀座七丁目四番十七号電通銀座ビル七F 電話〇三・三五六九・三五六六 www.ad-zenkoren.org
定価四五〇円(購読料は金費に含む)

広告の元気は、ニッポンの元気。

全 広 連

Special Report

第29回(平成30年度)全広連夏期広告大学



鹿児島県 南九州市 / 「薩摩の水からくり」と保存会メンバーの皆さん



公益社団法人
全日本広告連盟
JAPAN ADVERTISING FEDERATION

www.ad-zenkoren.org

CONTENTS

- 2 Special Report 第29回(平成30年度)全広連夏期広告大学
メディア×広告
～地域価値を高める新たな発信方法～
(岡山講座)
エネルギッシュな地域活性化の仕掛け人たち
～ひとが、熱量が、地域を動かす～
(富山講座)
第二の開国
～大交流時代に向き合う～
(大阪講座)
文化首都・京都の、創造的コミュニケーション力
(京都講座)
- 6 …………… 各地広告協会の動き
(愛知・岩手・東京)
- 7 …………… 第11回(平成30年度)
全広連 秋のシンポジウム ご案内
CLIP BOARD

Cover photo & Off shot



鹿児島県南九州市 協力(撮影:南日本新聞社 橋口実昭記者)

鹿児島県南九州市

「薩摩の水からくり」と保存会メンバーの皆さん

鹿児島県南九州市の豊玉姫神社で毎年7月に披露される「薩摩の水からくり」。水車の力だけで舞台上の人形を動かし、物語を演じる。江戸時代が起源とされ一時途絶えていたが、1979(昭和54)年に復活、地元の保存会が伝統をつないでいる。

復活から40年目の今年は、明治維新150年やNHK大河ドラマにちなみ、初の演目である「西郷どん」を披露。約20体の人形が登場し、鹿児島城御楼門から外出する島津斉彬や勢いよく跳び上がる西郷隆盛、剣術に励む若者らを表現した。

保存会の宮原知見さん(67)らは5月中旬から準備を始め、動作を刻む人形たちや衣装、背景などの製作に取り組んだ。舞台下のからくり部屋には人形の細かな動きを決める大小の木製歯車やてこ棒、操り糸といった仕掛けが並ぶ。それぞれの人形の動作を確認しながら調整を重ね、精巧で大がかりな地域の伝統文化を「匠の技」で受け継いでいる。

第29回
(平成30年度)

公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団 協賛
全広連夏期広告大学

第29回(平成30年度)全広連夏期広告大学(主催:各地広告協会、(公社)全日本広告連盟、協賛:(公財)吉田秀雄記念事業財団)を7月12日から8月30日にかけて、全国5地区で開催した。その概要をレポートする。(青森講座については11月号で掲載予定。)

講演テーマ及び講師

7月12日13:30~16:45 山陽新聞 さん太ホール

■岡山講座 「メディア×広告 ~地域価値を高める新たな発信方法~」

- 第1講「枠(ワク)トゥ ザ・フューチャー~地域メディア×クリエイティブで日本をもっと面白く!~」 博報堂DYメディアパートナーズ エンタテインメントビジネス局プロデューサー/クリエイティブディレクター 杉山豊氏
- 第2講「再発見から感動へ。」 Discover Japan 統括編集長 高橋俊宏氏
- 第3講「日本の未来を「地域」から発信する~これからの勝ち抜く広告コミュニケーション~」 博報堂 ブランドイノベーションデザイン局シニアクリエイティブディレクター 鷹薮愛郎氏

7月25日13:30~17:00 富山県民会館

■富山講座 「エネルギッシュな地域活性化の仕掛け人たち~ひとが、熱量が、地域を動かす~」

- テーマ解説 博報堂 博報堂ブランドデザイン副代表 スマート×都市デザイン研究所長 地域事業統括局 深谷信介氏
- 第1講「観光と地域 観光の変化とこれから」 とやま観光推進機構 マーケティング部長 JTB 名古屋事業部 観光開発プロデューサー 木村ともえ氏
- 第2講「秋田をバスケットで元気に ~ゼロからの挑戦~」 秋田ノーザンハビネッツ 代表取締役社長 水野勇気氏
- 第3講「地域の新たな価値:つなぎ・かけ合わせて生み出す+伝える」 アートプロデューサー/エビファニーワークス代表 林口砂里氏

7月31日13:30~17:00 大阪大学中之島センター 佐治敬三メモリアルホール

■大阪講座 「第二の開国 ~大交流時代に向き合う~」

- テーマ解説 博覧会プロデューサー/地域経済開発プロデューサー Landa 代表取締役 イベント産業振興協会 理事 宮本倫明氏
- 第1講「インバウンドの盛り上がりと呼応した日系企業の海外展開と外資進出のトレンド」 日本貿易振興機構(JETRO) 大阪本部長 曾根一朗氏
- 第2講「難波から世界へ、世界から日本へ」 リンクコーポレーション 代表取締役 牧香代子氏
- 第3講「インバウンド需要が高まる大阪における吉本興業グループの最近の取り組み」 吉本興業 執行役員 連結・財務管理本部本部長 兼 事業開発本部本部長 三田村達也氏

8月2日13:00~17:00 からすま京都ホテル「瑞雲の間」

■京都講座 「文化首都・京都の、創造的コミュニケーション力」

- 第1講「『バズるか死ぬか』~人がメディア化する現代における話題の作り方 / 情報設計の仕方~」 CHOCOLATE inc. / TBWA HAKUHODO Buzz Machine 栗林和明氏
- 第2講「『ICOMOS総会』招致・開催を活かした、新たな活力創造」 コミュニケーション・デザイン研究所 代表取締役社長 福井昌平氏
- 第3講「地域が主役となる『インターネット・クラウド』が生み出すグローバル情報発信」 パワープレイ 代表取締役 武井克明氏

8月30日13:00~17:00 リンクステーションホール青森

■青森講座 「地域発の広告・メディアビジネスの未来を考え、共創の芽を育てる」

- 第1講 ネイティブ 代表取締役 倉重直弘氏
- 第2講 青森公立大学 経営経済学部地域みらい学科 准教授 木暮祐一氏
- 第3講 博報堂 ブランドイノベーションデザイン局シニアクリエイティブディレクター 鷹薮愛郎氏

メディア×広告
~地域価値を高める新たな発信方法~

岡山講座	7月12日
開催:岡山広告協会 後援:岡山商工会議所、RSK、山陽新聞社 会場:山陽新聞 さん太ホール 参加者:110名	

第1講は、『枠(ワク)トゥ ザ・フューチャー~地域メディア×クリエイティブで日本をもっと面白く!~』と題して杉山豊氏が登壇。今の広告活動は、広告枠の中の表現を考える=Advertisingに加えて、Buzz、Contents、Digital・Data、Experienceまでを仕掛けていくことが期待され、役割が拡大していると指摘。地域活性化においては人が検索したくなるような“話題・仕掛け”をまずは作り、次に検索してもらった結果、「移住で子育てがしやすい」「パワースポットがある」「アニメの聖地がある」といった興味を持って多様な切り口の情報に触れてもらい、興味を持ってより深く知ってもらうことでその県への来訪などを促す、という一連の流れをつくっていくことがこれからのメディアや広告会社の役割ではないかと語った。



杉山豊氏

第2講は、『再発見から感動へ。』をテーマに、岡山市出身の高橋俊宏氏が登壇。高橋氏は、日本各地の魅力を紹介するDiscover Japan誌のコンセプトを紹介。規模の大小にかかわらず、素晴らしいものには大きく紙幅を割き、徹底的に魅力を紹介することで他誌と差別化するなど、独自性の高いメディアを目指していることを紹介した。岡山市の後楽園や西大寺会陽などを特集したこともあり、「各地のすばらしいコンテンツは実は豊富にある。細部まで掘り下げて取材し、デジタル化で大勢を誘客して感動してもらうことが大切。これからも各地の魅力を発信していきたい」と語った。



高橋俊宏氏

第3講は『日本の未来を「地域」から発信する~これからの勝ち抜く広告コミュニケーション~』として鷹薮愛郎氏が登壇。鷹薮氏は、もはやモノを大量にほしいと思わなくなった我々は、自分の価値観にあったものをカスタマイズして必要な分だけデジタルから購入するようになった大きな流れについて解説。マスのキャン



鷹薮愛郎氏

ペーンモデルに代わって、地域に軸足を置き、売上成長だけではなくブランド価値の成長をめざし、ブランドのファンを広げ続けていくモデルを、デジタル上でSNSや動画を活用して設計していくことが必要と語った。



個別講義後は、トークセッションも開催した。

受講者からは、「ローカルからでしか発信できないものがたくさんある、と自信を持てる。(放送局)」「地域社会全体のメリットを念頭に置いた講座だったので企業活動の意義を見直す良いきっかけになった。(広告会社)」「平成30年7月豪雨の直後で、地域から情報発信についていろいろと考えさせられた。地元の今に何ができるのか同じ思いを持つ人と考えていきたい。(広告会社)」といった感想が寄せられた。

エネルギッシュな地域活性化の仕掛け人たち
~ひとが、熱量が、地域を動かす~

富山講座	7月25日
開催:富山広告協会 後援:(公社)とやま観光推進機構、とやま広告業協会 会場:富山県民会館 参加者:120名	

解題の深谷氏は、政府による地方創生が始まって4年たち、取り組みの成否を分けているのは携わる人たちの熱意の差ではないかと指摘。各登壇者からヒントを得てほしいと語った。



深谷信介氏

第1講の木村氏は、観光産業の活性化を目指す際、地元の人が魅力だと思っていることと旅行者が体験したいことの間には大きなギャップがあり、事実(データ)に基づき思い込みを捨てることが重要と指摘。旅行者はその地域の何にわくわくするのか、地元の人が『温故知新』の心構えで自らを再発見してそれを臆



木村ともえ氏

せず発信していくことでお客様にほめていただくことができ、ひいてはそれらの言葉が地域の誇りとなって育っていくのではないかと語った。

第2講の水野氏は、『秋田ノーザンハピネット』の設立に際して、失敗するからやめた方がいいという周囲の声が非常に多かったが、同規模の他県でも運営できているならば必ず秋田でも成功するはずという信念を持って経営を始めた経緯を語った。また、秋田の人に地元への誇りを感じてもらう方法として、ゲーム前に『秋田県民歌』を合唱する取り組みを紹介。当初は浸透しなかったが、選手と共に歌うなどによって継続することで徐々に浸透し、応援を通じて秋田への誇りを持ってもらい、ひいては秋田県の活性化につなげていきたいと話した。



水野勇気氏

第3講の林口氏は、震災を機に高岡に帰郷し、故郷の持つ豊かな資源や財産を再発見し、それらをかけ合わせることで新たな価値を生み出すための活動をスタート。



林口砂里氏

『工芸ハッカソン』では、高岡の職人が持つ高い技術とロボティクスなどの先端技術の研究者がアイデアを出しあい、工芸の未来を提案するワークショップを実施。この度、東京でも開催が決定したという。活動においては実施だけでなく、伝える・届けるを戦略的に行う必要を実感しており、プレスリリースの継続的な発信など、オウンドメディア・ペイドメディアそれぞれの特徴を生かしながら今後も取り組んでいきたいと語った。



講義の様子

受講者からは、「地域の発展が自分たちの仕事、生活につながっていく事がよくわかった。地元のコミュニティ、会社、プライベート等でもっと時間を有効的に使い、地域の発展の力になるように頑張っていきたいと感じた。(制作会社)」「住民があらゆる立場からふるさを見つめて

良さや強みを再認識し、外に発信しようとする気概が必要だと感じた。(放送局)」といった感想が寄せられた。

第二の開国 ～大交流時代に向き合う～

大阪講座	7月31日
開催：(公社)大阪広告協会	
特別協力：(一社)日本イベント産業振興協会、イベント学会	
会場：大阪大学中之島センター 佐治敬三メモリアルホール	
参加者：100名	

宮本氏は解題にて、私たちを取り巻く想像を超えるテクノロジーの進化とそれに伴うビジネススタイルの革新があり、そこに訪日外国人の急激な伸長や農林水産物の輸出の進展など、大きなチャンスが来ていると解説。日本は地理的・文化的・精神的にも特殊性の高い国といえるが、鎖国的に突き詰めるのではなく世界に向けて広げていく、そういうマインドで物事を見てほしいと話した。



宮本倫明氏

第1講の曾根氏は、日本企業の売上高海外比率は2000年時点で7:3であったものが、直近では4:6に逆転しており、大きく伸長していると紹介。関西のインバウンドビジネスにおいては、関空からの入国者数は成田空港とほぼ同規模まで増えていると話した。また、国内GDPの7割はサービス産業から生まれており、現在は特に飲食業の海外展開支援が盛んにおこなわれていると解説。関西においては、国際的なブランド力を持つラグジュアリーホテルの誘致などを進めていると話した。



曾根一明氏

第2講の牧氏は、ウラなばの街づくりに携わっている事例を紹介。若者が集まる街としてのマップ作りやイベントの企画立案、外国人観光客が様々な体験をできるイベントの実施、加えて昔からなばを愛してくれているシニア層に向けても親しみやすいマップを作成するなど、街の魅力を知ってもらうための大切な一枚にするという信念を持って制作を続けていると話した。エンターテインメントの街・ニューヨーク、おしゃれな街・パリ、そしておもしろい街・難波と言われることを目標にしたいと語った。



牧香代子氏

第3講の三田村氏は、吉本興業が日本各地の“ローカル力”を最大限に発揮することで地域を活性化するための様々な取り組みについて紹介。『沖縄国際映画祭』は10回目となり、今では当地行政の支援を得ながら、沖縄の基幹産業の一つにするという想いをこめて人材育成のための学校なども運営している。2011年から始まった『あなたの街に住みますプロジェクト』は、47都道府県に「住みます芸人」が居住し、その地に住む担当社員とともに笑いの力による地域活性化を目指している活動。現在では全国の自治体から数百件にのぼる事業の依頼をいただいていると紹介した。大阪のインバウンド推進の取り組みでは、『クールジャパンパーク大阪』があり、健全なナイトエンターテインメントを提供する場として大阪城公園に2019年2月にオープン予定の一大プロジェクト。さらに、『府立万博記念公園』の指定管理者に吉本興業らの企業連合が選定され、2016年度に220万人だった入場者を300万人以上に拡大することを目指して今後取り組んでいくと語った。



三田村達也氏



トークセッションの様子

文化首都・京都の、創造的コミュニケーション力

京都講座	8月2日
開催：京都広告協会	
後援：京都商工会議所、京都広告業協会、京都広告懇話会、(公財)大学コンソーシアム京都	
特別協力：(一社)イベント産業振興協会、イベント学会	
会場：からすま京都ホテル「瑞雲の間」	
参加者：152名	

第1講の栗林氏は、話題=バズをつくるために自身が実践していることについて、まずは“バズらない”ものを見抜く目を養うために、話題の動画の総視聴数を予測して自分の感覚の精度を高める訓練が大切



栗林和明氏

と解説。バズらない動画の共通点を抽出し、バズっている動画についてはその特徴を類型化して知見を高める、地道な研究と実践のくりかえしの重要性について自身の経験をもとに語った。

さらに、「バズ」の「売上」への貢献可能性については、それができるケースとできないケースがあり、売れるバズは商品自体の特徴・魅力が話題になって拡散するので、商品開発から共同して行うことでよりよいアプローチができることを実感していると語った。

第2講の福井氏は、歴史文化拠点の価値を高めていくためには、1.遺跡価値の正しい理解、2.遺産としての価値を証明し、保存や来訪者受け入れの仕組み作り(世界遺産登録を目指すなど)、3.資産として市民合意を形成し、保存と活用による経済的な好循環づくり、のステップを適切に踏むことが大切と解説。これにのっとった平城京跡のプロジェクトは経済的にも大きな波及効果を生むことができ、これをモデルとして『歴史文化首都・関西』を提唱して行なった活動を紹介した。



福井昌平氏

『国際記念物遺跡会議(ICOMOS)』については単なる誘致ではなく、それをきっかけに省庁の地方移転、文化施設の建設、世界遺産登録運動の拡大など、地域経済と文化の活性化に最大限寄与できる形を実現していきたいと語った。

第3講の武井氏は、放送界のニュース報道などで使用する大きなサイズの動画をクラウド環境にアップロードし、共有するための技術的実現方法についてミラノ万博などを例に解説。今日現在でも、30GBのデータを伝送するには理想的な状況下で約42分、悪ければ数時間以上かかっており、このハードルを乗り越えるために各企業が共同して様々な努力が行われていることを紹介した。



武井克明氏

今後の技術進歩によって、従来は例えばイベントの報道はされても、“参加”までは実感することができなかったものを、今後より早くスムーズな通信が実現することによって、あたかも参加しているかのように感じられるような、多様な映像の提供を世界をまたいで実現していきたいと語った。

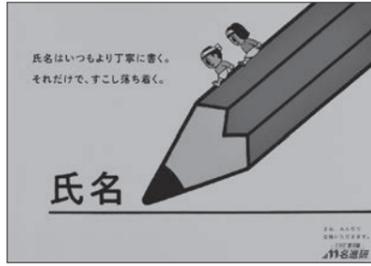
各地広告協会の動き

愛知 AICHI AD AWARDS 2018を決定

愛知広告協会が主催し、今年で4回目をむかえた「AICHI AD AWARDS (AAA) 2018」の受賞作品を7月11日に発表した。同賞では愛知県内在住、もしくは県内の会社に勤務するクリエイターから作品を募り、本年度は416作品が集まった。

グランプリに選ばれたのは、名進研ホールディングスのグラフィック10枚シリーズ「さあ、みんなで合格いただきます。」(電通名鉄コミュニケーションズ 池山徳和氏)。審査にあたったのは、東北新社 中島信也氏(審査員長)、デイリーフレッシュ 秋山具義氏、中日アド企画 加藤了平氏(AAA2017 グランプリ)、POOL 小西利行氏、電通 菅野薫氏、ワンスカイ 福里真一氏、goen° 森本千絵氏の7名。

森本氏はグランプリ作品について、まるで玄関先のお母さんのように『あとはリラックスしてね』とか、『名前は丁寧に書くと落ち着くのよ』と優しく背中を押してあげるようなメッセージ。視覚的には、どこか懐かしいデザインでした」と講評した。詳しくは、愛知広告協会ホームページにて。



名進研 さあ、みんなで合格いただきます。

岩手 岩手広告協会 通常総会、広告賞・広告美術展表彰式を開催

岩手広告協会は7月24日、盛岡市の盛岡グランドホテルで第50回通常総会と、第49回岩手広告賞・岩手広告美術展の表彰式を行った。

総会には約45人が出席。会長の東根千万億岩手日報社社長は「広告は地域のエネルギー源。大いに盛り上げていこう」とあいさつした。役員改選で東根会長を再任。本年度事業として、「岩手広告賞・広告美術展」の作品募集や、10月に講演会、2019年2月に節分析願祭などを行う。

総会後に岩手広告賞・岩手広告美術展の表彰式が行われ、入賞作品計62点の広告主らを表彰した。最高賞の県知事賞には、ポスターの部で岩手広告賞を受賞した洋野町総合戦略推進室の「洋野町 タウンプロモーションポスター」と、高校生ポスターの部で岩手広告美術賞を受賞した田鎖優菜

さん(岩手県立不来方高校)の「スマホいじめ防止ポスター」が輝いた。式典後には懇親会が催され、会員と受賞者が歓談した。



地域を盛り上げる広告発信に取り組む岩手広告協会の総会

東京 東京広告協会 【実践広告スキルアップセミナー】 3日間にわたり開催

東京広告協会(理事長:大平明)は平成30年度実践広告スキルアップセミナーを7月10日、17日、24日、日比谷コンベンションホールで開催した。総合テーマを「デジタルトランスフォーメーションの今」とし、会員・一般からのべ約355人が参加した。

第1週はクリエイティブを軸に菅野薫氏(電通)、徳井直生氏(Qosmo)ら3名が登壇。第2週はメディアビジネスをテーマに安藤聖泰氏(HAROid)、吉村康祐氏(西日本新聞社)ら4名が登壇した。第3週はデータ・マーケティングの最前線について、緒方恵氏(中川政七商店)ら3名が登壇。詳細は東京広告協会ホームページにて。

第11回(平成30年度) 全広連 秋のシンポジウム ご案内

広告の力による地域課題の解決を目指して、長崎、愛知、福島で開催



第11回(平成30年度)全広連秋のシンポジウム(主催:各地広告協会、(公社)全日本広告連盟、協賛:(公財)吉田秀雄記念事業財団)を、長崎(長崎広告協会)、愛知(愛知広告協会)、福島(福島広告協会)の3地区で開催します。

広告の力による地域課題の解決を目指して、デジタルメディア関係者や広告クリエイターなど幅広い領域から、最前線で活躍中の多彩な講師陣を招きます。

開催日は長崎:11月7日(水)、愛知:11月22日(木)、福島:調整中。(講師のやむを得ない事情などにより開催日程を変更する場合があります。)詳細・最新情報は全広連ホームページ上で告知します。お申込・お問い合わせは、各実施

広告協会まで。



昨年のパネルディスカッション風景



全広連の活動について詳しくはウェブサイトから ▶ www.ad-zenkoren.org

TOPICS

福岡広告協会、『2018福岡広告協会フェア』を福岡市の後援を得て開催、盛況を博す

福岡広告協会は、『2018福岡広告協会フェア』を、7月13日~16日に開催した。本年より福岡市の後援を得て、福岡市役所本庁1階ロビー多目的スペースを利用。例年の3倍近い886名の入場者があった。初日にはオープニング式典、貞刈厚仁福岡市副市長によるテープカットを実施し、「博多祇園山笠追山見せ」も行われて多数の市民・来庁者が入場した。車椅子・ベビーカーの方などもアクセスしやすく、多くの方が熱心に観覧していた。



今後も、より多くの方に福岡広告協会の活動に対して関心を持ってもらい、広告活動の活性化を図っていくため、継続して福岡市役所にて展開していく予定。

INFORMATION

全広連の活動(平成30年9月~11月)

- 活動日程 10月26日 全広連ブロック会議、第110回全国事務局長会議(富山、ANAクラウンプラザホテル富山)
- 11月予定 第11回(平成30年度)全広連秋のシンポジウム(長崎、愛知、福島)

加盟各地広告協会 人事 [順不同・敬称略]

理事長就任	[富山広告協会] 忠田憲美(北日本新聞社 代表取締役社長) 7月1日付
事務局長就任	[宮崎広告協会] 中島克彦(宮崎日日新聞社 業務局次長) 7月19日付

加盟各地広告協会 新入会員社紹介 [順不同・敬称略]

<p>【秋田広告協会】(3社 3名) ■株東北iツアーズ 代表取締役社長 大庭裕行 ■凸版印刷株東日本事業部秋田営業所 第1営業本部第2部部长 兼 秋田営業所所長 蜂谷英典 ■株ライナーハウス 代表取締役 三浦陽悦</p> <p>【山形広告協会】(2社 2名) ■株サム・コミュニケーションズ 代表取締役 相川博昭 ■(株)三益堂 代表取締役 齋藤実</p>	<p>【新潟広告協会】(4社 6名) ■株エヌケービー新潟支社 支社長 成澤亮太 ■CreativeLand晴れ日 代表 小柳行弘 ■株セツサ 代表取締役 嘉村康介 ■ドコドコ(株) 代表取締役 本間孝之 取締役 齋藤俊徳 プロデューサー 本間翔太</p> <p>【愛媛広告協会】(2社 2名) ■コカ・コーラボトラーズジャパン(株) 四国地区統括部地区統括部長 宇野寿重 ■合資会社ワークショップCO・松山 代表社員 田村俊夫</p>	<p>【大阪広告協会】(2社 3名) ■株ファーストブランド 代表取締役 河本扶美子 ■ヤフー(株) メディアカンパニーマーケティング ソリューション統括本部 エリアオンライン営業本部 本部長 福山広樹 西日本営業部部長 次屋正法</p> <p>【愛知広告協会】(1社 1名) ■株フェローズ 取締役 土屋高広</p> <p>【京都広告協会】(1社 1名) ■株ジェイアール東日本企画関西支社 執行役員関西支社長 稲葉耕一</p>	<p>【島根広告協会】(6社 6名) ■株アイコン 代表取締役 三島隆 ■SCアドクロス(株) 代表取締役社長 宇畑学 ■(有)山陰エスピープランニング 代表取締役 内田光信 ■株ヒニアラタ 代表取締役 馬庭吾一 ■メディアミックスキャビン 代表 吉野英男 ■株モット 代表取締役 大田和寛</p> <p>【沖縄広告協会】(1社 2名) ■株真宣組 代表取締役 真栄城嘉史 執行役員クリエイティブディレクター 田淵研路</p>
--	---	--	---

<p>【神戸広告協会】(32社 58名) ■あいおいニッセイ同和損害保険(株) 神戸支店 企業営業課課長 土佐好広 末廣周平 ■SMBC日興証券(株)神戸支店 支店長 中田太治 ■カシオ計算機(株) 西日本営業部部長 人見剛史 神戸営業所所長 島田憲吾 ■関西電力(株)兵庫支社 支社長 松本真一 神戸コミュニケーショングループ 担当部長(兵庫県) 竹岡新二 ■京都銀行神戸支店 支店長 南善章 支店長代理 栗山紀行 ■キリンビバレッジパリエバンダー(株) 近畿圏支社 法人営業部部長 芳野博郎 泉社一 ■株クレ・ドゥ・レーブ シーンプロダクション事業部 マネージャー 立石龍仁 プロデューサー 井神佑介</p>	<p>■株神戸クルーザー 代表取締役社長 玉置和則 営業部執行役員 細長保宏 ■神戸三宮東急REIホテル 総支配人 宮崎公之 ■神戸信用金庫 理事お客さまサポート部長 大前俊之 ■サッポロビール(株)近畿圏本部 神戸支社長 古川光偉千 課長代理 水畑亮二 ■沢の鶴(株) マーケティング室室長 郷田琢磨 ■株山陰合同銀行神戸支店 支店長 生田博久 吉川昌則 ■株J R西日本コミュニケーションズ 営業本部マスメディア部長 奥川修一 営業本部マスメディア部課長 山本芳治 ■株四国銀行神戸支店 執行役員支店長 須賀昌彦 副支店長 島内俊二 ■株商工組合中央金庫神戸支店 支店長 阿部学 営業部長 小野寺隆</p>	<p>■住友生命保険相互会社神戸支店 総合マーケット推進部長 大和田利治 法人担当部長 飯田昭弘 ■創企(株) 代表取締役 平川昌勝 取締役 平川明宣 取締役 平川喜則 ■株大和ファシリティーズ 代表取締役 三浦文夫 プロパティマネジメント部長 出水隆之 ■東京海上日動火災保険(株)神戸支店 支店長 佐野元昭 次長兼営業第一課長 深谷央 ■西日本旅客鉄道(株)神戸支社 副支社長 若菜真丈 ■野村證券(株)神戸支店 支店長 澤田正宏 ■阪神電気鉄道(株) 常務取締役 西野暁 経営企画室部長(広報担当) 柴田達人 ■株姫路ヴィクトリーナ 代表取締役球団社長 橋本明 球団専務取締役 北川俊文 取締役球団本部長 内田奈々</p>	<p>■株ブラン・ドゥ・シー (ORIENTAL HOTEL) 総支配人 佐伯昌紀 ■株ホテルニューアワジ神戸 (神戸ベイシェラトンホテル&タワーズ) 総支配人室室長 磯部貴順 総支配人室室長代理 西橋悦 ■ホテルマネージメントインターナショナル(株) 神戸事業所営業統括支配人 魚住智久 関西事業所所長 山本裕之 ■明治安田生命保険相互会社神戸支社 支社長 武岡志郎 市場統括部長 神戸章治 ■森永乳業(株)神戸支店 支店長 石和田剛彦 食品流通営業課長 久津間浩 ■大和工業(株) 代表取締役社長 小林幹生 取締役総務部長 中矢憲護 ■楽天ヴィッセル神戸(株) 取締役事業本部本部長 森井誠之 ■ルミナスクルーズ(株) 相談役 梅田豊 業務部課長 杉浦哲</p>
---	--	---	--